

## 担子菌類の塩耐性とその利用に関する研究

1180233 内藤沙那美

Salinity tolerance of basidiomycetes and their applications

Sanami Naitou

担子菌類は、ゲノムサイズが微生物の中では比較的大きく、様々な機能を有していると考えられる。例えば、白色腐朽菌類のリグニン分解酵素を利用した難分解性物質の分解除去や、発酵性担子菌類を利用したエタノール発酵等による資源変換の分野における応用研究が進められている。担子菌類をそのような環境浄化や資源変換に用いる場合、他の微生物すなわち雑菌と競合する場合が想定される。担子菌類に有利な条件があれば、雑菌汚染のリスクが軽減できる可能性がある。したがって本研究では塩濃度に注目し、塩濃度と担子菌類の増殖速度の関係を検討した。供試菌として、スエヒロタケ *Schizophyllum commune* 4 株、オオウズラタケ *Fomitopsis parstris* 2 株、ヤケイロタケ *Bjerkandera adusta* 6 株、シイタケ *Lentinula edodes* 4 株、ムキタケ *Panellus sertinus* 3 株、カワラタケ *Trametes versicolor* 3 株、エノキタケ *Flammulina velutipes* 1 株を用い、NaCl を 1~6%含むポテトデキストロース寒天培地で培養し、成長速度を測定し担子菌類の塩耐性を評価した。